

渥美どろんこ村スタディツアー

テーマ：循環を創造する現場から、暮らしの根底にある“関係性”を捉え直す

募集要項

【主催】

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

1. 日程

●事前学習 2026年5月28日(木) ※時間は参加者確定後改めて連絡します
[ツアーの趣旨説明、事前アンケートの実施等]

●現地訪問 2026年6月6日(土)～7日(日) 1泊2日

*内容は変更される場合があります。

➤ 1日目

時間	場所	内容	備考
13:00	どろんこ村(家)	昼食	実費(1000円/人)(仮)
15:00	ITONAMIハウス	体験交流施設の現場& バイオトイレ説明	車で10分ほど移動した場所
15:30	地球46億年の 歴史ロード	歩く	畑の全体像説明も兼ねる
16:30	豚の運動場	豚の晩ごはん作り	
17:30		お茶碗一杯のお米	様々な方法で脱穀・粳摺り
18:00		藁炊きご飯	
18:30	どろんこ村(家)	夕食作り	野菜を収穫して帰る
		対話、議論	社会、経済、いのちを俯瞰し、 自分の価値観を問い直す。

➤ 2日目

時間	場所	内容	備考
7:00	どろんこ村(家)	海へ、帰ってきて朝食	できれば街めぐりも。
9:00		ITONAMIハウスについて 説明・議論	購入(助成金の申請書)・建設・ 運用について
10:00	畑	「田んぼの学校」の見学	親子の体験プログラム
11:30	豚の運動場	豚の朝ごはんづくり	
12:30	どろんこ村(家)	昼食作り	実費(1000円/人)(仮)
		振り返り、対話・議論	
15:00(?)		出発	

●事後学習 ※時間は改めて連絡します。スタディツアー終了後、感想文を提出してください。

2. 内容

現代の都市生活は、多くの人の労働、モノ、生物のいのちに支えられて成立している。一方で、利さや効率性の追求、分業化や自動化が進展した暮らしの中では、そうした関係性の中で生きているという実感を得る機会が少ない。こうした状況は、自助・共助の希薄化や、社会構造に対する理解不足、また学生にとっては、社会から隔絶されたことによる進路選択時の判断軸の持ちづらさという課題にもつながっている。

本企画では、愛知県渥美半島にある「渥美どろんこ村」を訪れ、農業を中心とした自給自足的な暮らしを体験するスタディツアーを実施する。現場では、家庭や地域の内外に存在する人・いのち・物質・エネルギーを一つ一つ繋ぐことで、全体として循環を生み出す暮らしや、農村だからこそ感じられる、40億年以上続いてきた**いのちの営み**の一端を追体験する。こうした体験を通じ、都市生活では見えにくい「暮らしの根底にある関係性」を自分自身の感覚として捉え直すこと、またそれにより「地球一個分の暮らしの価値観」について思考するきっかけとなることを目指す。

単なる農業体験や自然体験にとどまらず、暮らしそのものに身を置くことで、生産と消費、食と農が断絶されがちな現代社会の中で立ち止まり、自分がどのような関係性の中で生きているのかを見つめ直す機会を提供することを目的とする。また体験を通じた学びにより、参加者一人一人が行動や生き方を、多様な“関係性”の視点から主体的に選択するきっかけとなることを期待する。

3. 募集対象・人数 社会課題や環境問題など、多様な分野へ関心をもつ学部生・院生10人程度

4. 募集期間 2026年5月2日（木）～5月27日（水）

5. 応募条件 *人数制限があるため、応募多数の場合は選考します。

- ・全行程（事前学習を含む）に参加できる人を優先します。学部・研究科の授業や研究活動との両立も考えて応募してください。
- ・志望動機（A4一枚以内：800字程度）[別紙 応募用紙]を募集期間内に提出してください。
- ・応募にあたって指導教員の許可を得てください。（責任教員がない場合はご相談ください。）
- ・参加にあたり、学研災・学研賠の加入を確認してください（加入必須）。

6. 費用 現地集合現地解散です。宿泊費は大学負担ですが、現地での昼食代と現地までの交通費は学生の実費負担です。なお、現地までの交通費は最大6000円/人まで補助します。

【問い合わせ・応募用紙提出先】

社会ソリューションイニシアティブ 伊藤武志 (takeshi-ito@ssi.osaka-u.ac.jp) まで
(吹田キャンパス テクノアライアンス棟 B907)